

日出彦の歳時私記

MIYUKI NAKAJIMA Concert Tour 2007

日出彦

今回は特別企画です。かなりマニアックになってしまいましたので、ついていけそうもないとおもわれる方は写真だけでも見てください。

2007年12月19日水曜日



16:45 代々木：依頼主との業務打合せ終了

今宵は中島みゆきのコンサートツアー東京公演に行く予定があるので、仕事の打合せも時間が気になって、最後はバタバタと決め、次の約束を確認してからビルを出て駅に向かいました。代々木駅から一旦新宿駅に出て、中央線快速電車に乗り代えて東京駅まで。快晴とはいえませんが、まあよい天気、夕方5時を過ぎるとこの時期もう薄暗くなってきています。イルミネーションが目立ち始める時刻です。陰になった中央郵便局を右手にみて、有楽町側に歩いていくと、出発待ちの<はとバス>が道路に沿って行列しています。



キティちゃんはとバス



東京国際フォーラム



コンサート案内

JR ガード下の飲食店はすでに活気を帯び、酔客で混雑している様子です。やがて、前方に楕円形のビルが見えてきました。その右手は雑木林を模した広場兼通路になっていて、とりどりのイルミネーション¹が浮かんでいます。通路の右手には未完成のままのようなデザインビルが建っていて、それが目指す東京国際フォーラムのイベント会場ビルでした。

¹ HARMONIA' 07-' 08 光と音のハーモニー；クリスタルイルミネーション

17:35 有楽町：東京国際フォーラム ホールA前

17:30 開場となっていました。すでに多くの観客が詰め掛けていて行列を作って並んでいます。係員が「全席指定ですので並ばなくて結構です」と叫んでいますが、それでもホールの外まで溢れて並んでいます。当日券は販売されていないそうで、なぜ並ぶのか、小生には分かりませんでした。で、列が動くまで外れたところで待機していました。予定より 15 分近く遅れて列の先頭が動き出し、見ていると駆け出していく人々がいる。みゆきさんと握手できるというわけでもなし、再びついて行けない日出彦でした。

入場してみて分かったのはみゆきグッズの販売所の大混雑で、ああこれだったのかと分かりましたが、でも、行列したり、駆け出したりするほどでもないのにね。入って左手に「みゆきさんにおたよりしよう」というコーナーがあり、そこは比較的空いていたので行ってみると、A5 大のメモ用紙があり、そこにコメントを書くようになっていました。恥ずかしながら小生もおたよりを出しちゃいました。その後、CD が欲しかったので、向かって左手の列に並び、〈ララバイ SINGER〉と〈I Love You、答えてくれ〉を買いました。3000 円以上買うと、おまけにみゆきさんの自筆のサイン色紙が貰えるのです。左手の売店は手ぬぐいとかカレンダーとかの、みゆきグッズが販売されていて、CD・DVD コーナーの倍は混んでいました。小生は諦めて自席を探しに中二階の階段に向かいました。そこから 1 階席にアプローチできるようになっています。二階席はさらに上への階段かエスカレータを上るようです。

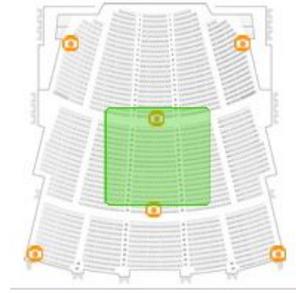
18:00 ホールAの客席：開演前のひと時

小生の席は {1 階 27 列 42 番} というところで、前方の舞台の中央から一直線上にある、つまりど真ん中の席でした。偶数列だとこのようには行かず、42 番と 43 番の間が中心線になる構造になっています。まあ、一寸首を曲げれば同じですが・・・。列は 1 から 47 まで、席は列により異なりますが、平均して列当たり 70 席ですから、1 階席だけで 3,200 人が座れる勘定です。ホールAは全部で 5,000 人強収容できるそうです。1 階席は舞台を中心にした同心円の通路で前 (21 列)、中 (17 列)、後 (約 9 列) の 3 つに仕切られ、また放射線上に仕切られた 5 つのグループに客席が分割されています。都合 15 個の小ブロックに分けられています。小生の席は中の 3 のブロックのほぼ中央にあります。

前方のステージはまだ薄暗く、また前と中の間の通路には音声ミキシング卓のような装置が並んでいます。小生の席の右隣は 30 代の会社員風、左隣は 40 代のカップルでした。ずうっと前方の席には小生よりも高齢に見える男性が座ったので、なぜか安心した日出彦でした。背後の 28 列に 30 代の女性が二人いて、声高に喋っている会話を漏れ聞くと銀座のクラブの話でした。12 月はホステスの引き抜きが多くて、自分の店も何人が移っていったとか、倒産寸前のクラブがあつて、12 月はクリスマスがあるので頑張つて店をあけているが、多分 1 月になると店を閉めるだろうとかいった話題でした。二人は他の席に散らばっている仲間と東京公演の最終日に〈店を休んで〉きたそうです。こうしてみると、みゆきさんのファンは年齢的に 10 代から 80 代まで広がっていて、職業も多種多様ということが



舞台のイメージ



客席マップ

いえそうです。客席通路を縫って公演パンフレットの売り子や、おたよりコーナーへの投稿を催促するスタッフの声が響きます。開演時間が近づくにつれ、買い物をしていた観客が少しずつ戻ってきます。見渡すと座席ギッシリと詰まっていて、満席でした。今夜だけで5,000人のファンが集まったのですね。そうこうしている内に、開演5分前を示すブザーが鳴り渡りました。場内はロビーから急ぎ戻ってくる観客で暫し混雑。小生も一応手洗いに行って準備モードに入りました。オペラグラス代わりの小型双眼鏡を取り出すと前方の舞台に焦点を合わせました。前方のミキシング卓の操作者が入ってきました。



コンサートのパンフ (A3大)



購入した CDs

18:30 開演：写真禁止のため画像はありません

予定時間の1分前に場内が暗転して何も見えなくなり、ざわめきが収まりました。時間きっかりに舞台が明るくなると、演奏者とコーラスが並んでいました。演奏が始まり、暫く続く内に左手裏からピンと背筋を伸ばした歩みでみゆきさん登場です。歌姫のような、カルメンのような深紅のドレス姿でした。中央のステージに到着すると、そのままマイクに向かって「御機嫌如何」²を歌い出しました。双眼鏡で覗くとみゆきさんの表情がはっきり映し出されました。すぐ、目の前にいて、自分だけに歌いかけているような錯覚を起しそうです。小生の席はみゆきさんを独占できる席でした。続いて多分新曲を熱唱。そこで、

² 1988年「中島みゆき」；小生は「中島美雪」という香港版を持っていたはずですが、手元に見つかりません。

一息入れて、突如オールナイト日本の DJ 調での語りです。「歌と語りが大きく違う中島みゆきで一す」と始まって、「NHK のプロジェクト X の縁で今日おいでになった方は驚いたでしょう」と熟年層をフォロー。「紅白で歌詞を間違えたみゆきです」と笑いをとって、なみふく³会員の間でささやかれた「中島みゆきのところは録画」説や黒部ダムのトンネルで凍えるほど寒かった話などで会場を一気に和やかムードにしてしまったのはさすがです。その後、新曲を2曲、「あなたでなければ」⁴と「一期一会」⁵を歌いましたが、後者は TBS の〈世界ウルルン滞在記〉の主題歌です。小生は双眼鏡でずうっと見つめていて手が疲れしました！ 吉永さゆりと中島みゆきは年をとってもいつまでも若々しい不思議な人です！ 気がつくとお隣の中年男性も小生と同じ型の双眼鏡でみていました。お互いにニヤリです。次は「East Asia」⁶という小生のよく知っている曲になりました。この後、拍手に送られて出場のときと同様に左手裏に消えていきました。(暗転)

次に、現れたときは白いシャツに黒いチョッキとパンツというシンプルなスタイルになって、おたよりコーナーが始まりました。当日会場から集めた投稿を紹介するものでした。ポチという名の放送作家が裏方で厳選したそうで、紹介されたおたよりはウイットに富んだ会場を笑わせる内容でした。小生もお便り出したのですが、到底読まれるレベルではなく、汗顔の至りです。隅にここで、でじなみ⁷で募集した「コンサートで聞きたい中島みゆきの歌」の裏話を披露。これで自分が選曲しなくてすむと思ったら、ファンの選択した歌はマニアックで、全ての歌に投票が入ってとても簡単に選べなかったという話で、その中からコンサートごとに変えて披露するということでした。小生も応募しましたが、「狼になりたい」、「銀の龍の背に乗って」、「野うさぎのように」で、今回歌ってもらえませんでした。そこで紹介されたのは極めてマニアックな古い歌の「蕎麦屋」⁸と結婚披露宴で唯一歌ってもらえるという「糸」⁹。盛り上がったところでの最後のおたよりは今回3度目という「I Love You, 答えてくれ」の題字をかいた三代目魚武濱田成夫氏からのものでした。みゆきさんの紹介の妙もありますが、自分の題字を染めた手拭いを10本買ったというところで皆大笑い。会場を沸かせました。次は、「ララバイ Singer」¹⁰と間に「アザミ嬢のララバイ」¹¹を挟んだメドレーでした。30年を隔てたララバイつながりですね。(暗転)

最後の衣装は純白の花嫁衣装のようなドレス姿でした。会場から「みゆきさん、綺麗！」

³ 「中島みゆきファンクラブ」の頭文字で、小生は1999年の「なみふく祭り」に参加して後、2002年に入会したのではないかと思います。

⁴ 2006年「ララバイ SINGER」

⁵ 2007年「I Love You, 答えてくれ」

⁶ 1992年「EAST ASIA」

⁷ 1998年にYamahaがBiglobeの会員に募集した中島みゆきファンサイト。ちなみに小生は開始時からの会員です。

⁸ 1980年「生きていてもいいですか」

⁹ 1992年「EAST ASIA」；2006年「元気ですか」—Cacooさんからこれのカバー・ヴァージョンのBank Bandの歌を聴いたかどうか聞かれましたが、小生はまだ残念ながら聴いていません。

¹⁰ 2006年「ララバイ SINGER」

¹¹ 1976年「私の声が聞こえますか」

との声が飛びました。後半最初の曲は「宙船（そらふね）」¹²でした。最初に TOKIO に曲の提供をしたときのエピソードを披露。楽曲の譜面と歌詞の他に、実際に歌ったテープを渡すのだそうですが、男性の歌なのでコーラスの宮下文一氏が吹き込んだそうです。実はみゆきさんと譜面通り正確に歌わないのでコーラスの人に正確に歌ってもらおうとか。そんな訳で、比較してみてもということで最初の1コーラスは宮下氏が、その後をみゆきさんが歌いました。

ここまでで、何と冗長な文章と思われたのではないのでしょうか。でも、ご心配なく。この後はポイントを絞って紹介します。実は後半は新曲ラッシュだったので、何という歌がよく分からなかったのです。不勉強で、すいません。(その後、web で曲目を見つけました。日によって違うそうですが、今までのところは合っているようです！ 付録参照)

みゆき節で紹介される語りには面白いものが多々で思わずニヤツとしてしまうものもありました。たとえば、吉田拓郎のつま恋ライブにゲスト出演したときの話。シークレット出演ということでずーっと缶詰にさせられて、会場は豪華なケータリングサービスがあったのに、自分はマクドの昼食だけだったなどのエピソード。そんな前振りでみゆきさんは拓郎の「唇をかみしめて」を披露しました。途中、引き抜きで白の基調のまま、少し衣装が変わりました。終盤には、みゆきさんによる演奏メンバーの紹介がありましたが、パートごとに行って拍手回数を節約する演出は斬新でした。後半で、小生の知っている歌は「ファイト」¹³と「誕生」¹⁴だけでしたが、後は「ララバイ SINGER」と「I Love You, 答えてくれ」からの新曲だったようです。かくして16曲を歌い終わってみゆきさんは静かに退場して行きました。演奏だけが流れてやがて暗転。

暗い会場からはアンコールの拍手が鳴りやまず、10分位そんな状態が続いたような気がするのですが、闇の中なので本当はもっと短かったかも知れません。手が痛くなってきたとき、舞台がパッと明るくなって今度はフォークシンガー風のスタイルで登場です。前列の観客は総立ちになり、小生の周辺は高齢者が多かったのかあまり立つ人はいませんでした。小生の右隣のサラリーマン風の方は立ち上がって乗り乗りでした。もちろん、小生は座ったままでした。3曲披露された中に、皆が待っていた「地上の星」もありました。最後は新曲の「背広の下のロックンロール」で、みゆきさんも上着を脱いで袖なしのロックンローラー姿になっての熱演です。

こうしてコンサートの総てのプログラムは終わりを迎えたのでした。よく3時間もぶっ続けで歌えますね。ご苦労様。さすがプロです。演劇や歌劇だと作業分担できますが、コンサートは独演会ですから。昨年の夜会の時はアンコールはなかったことを思い出しました！ タイムマネジメントはよくできていました。きっかり3時間経っていました。21:30 終演。

¹² 2006年「ララバイ SINGER」

¹³ 1983年「予感」

¹⁴ 1992年「EAST ASIA」

21:45 有楽町駅：遅い夕食をとる

5千人の大混雑は会場を出るときも続きました。お陰でカレンダーとか買い忘れてしまったグッズもありました。2008年5月には今回のコンサートのビデオが出るようです。3時間ぶっ続けのツケは外に出ると現れました。空腹です。駅前の立ち食いそば屋で空腹を満たして帰途につくと、次第に日常生活に戻って行くのを感じました。

付録：演奏曲目例 (<http://www.miyuki-lab.jp/live/music/c2007/02a.shtml>)

- (1) 御機嫌如何
- (2) 1人で生まれて来たのだから
- (3) あなたでなければ
- (4) 一期一会
- (5) EAST ASIA
- (6) 蕎麦屋
- (7) 糸
- (8) ララバイ SINGER～アザミ嬢のララバイ
- (9) 宙船(そらふね)
- (10) 昔から雨が降ってくる
- (11) 唇をかみしめて(作詞作曲:吉田拓郎)
- (12) ファイト!
- (13) 誕生
- (14) ボディ・トーク
- (15) I Love You. 答えてくれ
- (16) 重き荷を負いて
- (17) 本日、未熟者
- (18) 地上の星
- (19) 背広の下のロックンロール



CDを買って、貰った直筆らしい色紙